健康ステーション

ニッポン病院の実力

東京医科歯科大学医学部附属病院 小児科

「原発性免疫不全症」の早期発見に 新生児マススクリーニングの普及

ヒトの免疫は、感染症やがん、膠原病（こうげんびょう）やアレルギーなどに関わり、非常に複雑だ。生まれながらの遺伝子の異常によって、ひとつの免疫の仕組みがうまく働かないと、重度の肺炎などの症状を繰り返して命に関わる。それを「原発性免疫不全症」という。原因となる遺伝子は約300種類もあり、症状が多彩ゆえに診断は難しい。

そんな原発性免疫不全症に対し、国内の砦（とりで）となっているのが、東京医科歯科大学医学部附属病院小児科だ。最先端の研究、診断、治療を行い、全国の医療機関からの相談も受けている。

そして、先頃、原発性免疫不全症のひとつ「先天性肺胞蛋白（はいほうたんぱく）症」の1歳の患者に、造血細胞移植による治療を世界で初めて成功させた。免疫細胞は骨髄で作られるため、移植がうまくいくと、肺胞蛋白症も改善されるのだ。

「原発性免疫不全症は重症化すると、予後が非常に悪いです。今回のケースでは、臍（さい）帯血で骨髄の機能を回復させる臍帯血移植では、残念ながら効果が得られませんでした。そこで、お父さんの骨髄を移植することにしたのです。結果として、先天性肺胞蛋白症に対し、造血細胞移植で治る可能性について、明らかにすることができました」

こう話す同科の金兼弘和准教授（54）＝顔写真＝は、原発性免疫不全症を簡便に検査する方法を開発するなど、長年、研究と臨床を行うスペシャリストだ。

「免疫不全症の患者さんは、感染症などに冒されやすく、造血細胞移植は容易なことではありません。しかし、当科は、長い歴史と実績があり、熟練した医師や優秀な若い医師など、スタッフが充実しているのが強みです」

原発性免疫不全症は、一見、治りにくい肺炎のような症状など、原因が見えにくく専門医でないと早期診断は難しい。しかも、患者数は全体で年間2000人程度と数が少ないので、一般的な医師が経験を積むチャンスも乏しい。そのため、金兼准教授は、開業医などの医師に対する啓発活動にも力を入れている。

「肺炎などが重症化すると、予後に悪影響を及ぼします。当然のことながら、早期発見と早期治療が、原発性免疫不全症においても、非常に重要なことなのです。早期発見と治療で救える命があることを、より多くの先生方に、知っていただきたいと思っています」

原発性免疫不全症は、生まれた直後に症状が出ないことが多い。そこで、金兼准教授は、出産直後の赤ちゃんの血液検査により、原発性免疫不全症を見つける新生児マススクリーニングを普及させたいと考えている。

「早期発見には、新生児マススクリーニングが大いに役立つと思っています。また、将来的には遺伝子治療も開発されるでしょう」と金兼准教授は話す。希少で重篤な病を克服すべく、スタッフとともに奮闘中だ。（安達純子）

＜データ＞
2015年実績
・入院患者数　954人
・造血細胞移植　9例
・実稼働病院病床数　711床
〔住所〕〒113―8519　東京都文京区湯島1の5の45　電話／03・3813・6111

Dr.中原英臣の医の常識非常識

不眠症

厚生労働省の研究班によって、日本人の成人は30％が不眠症に悩んでいることが明らかになっている。不眠症とは、入眠や眠りを持続することができない睡眠障害のことで、日中の眠気、注意力の散漫、疲れといった体調不良が起きる。

不眠症は、なかなか寝つけない「入眠困難」▽睡眠中に何度も目を覚ます「中途覚醒」▽十分な睡眠がとれないうちに目が覚める「早期覚醒」▽眠りが浅く、睡眠時間のわりに熟睡した感じがえられない「熟眠障害」―の4つのタイプに分類される。

入眠困難は若い世代にも多い。脳が覚醒した状態にあることが原因となるので、寝る直前までパソコンやゲームをしていると起きやすい。パソコンやゲームは少なくとも床に入る2～3時間前にはやめた方がいい。

中途覚醒と早期覚醒は高齢者に多い。高齢になると睡眠を維持することが難しくなり、中途覚醒や早期覚醒が起きやすくなるためだ。

昔から年をとると、夜中に目を覚ましたり、朝早くに目が覚めるようになったりするといわれるが、これらは医学的には「睡眠維持障害」と呼ばれる。

高齢者に中途覚醒や早期覚醒が多いのは、夜中にトイレに起きる夜間頻尿などの病気が増えるからといわれている。寝る前にお酒を飲むことで睡眠をとろうとする人がいるが、アルコールには利尿作用があり逆効果になりかねないので注意してほしい。

寝る前のアルコールは利尿作用があり逆効果

不眠症には、さまざまな原因がある。一つは、ストレスによる心理的原因に根ざすもの。さらに、身体の病気や症状による身体的原因、鬱病など心の病気による精神医学的原因によるものがある。

他にも、服用している薬やアルコール、カフェインなど薬理学的原因があったり、海外旅行や出張による時差ボケや受験など環境変化が影響する生理学的原因があったりすることも考えられる。

いずれにしても、不眠症が長期的に続くことで精神的な障害が起きることもある。症状に気づいたら、不眠外来などで専門医の診察を受けることをお勧めする。

（山野医療専門学校副校長）

ちょっと医い話

危機意識の低下で狂犬病予防接種率減少

飼い犬に年1回の接種が義務づけられている狂犬病予防接種率が、減少の一途をたどっている。1993年には全国の登録犬の99％以上が接種していたが、2014年には71％まで減少、危機が忍び寄っている。

ウイルスに感染した犬に噛まれて人間が発症すれば致死率はほぼ100％だが、国内では1956年を最後に犬の発症例がなく、危機意識の低下から予防接種を受けさせないケースが増えているという。隣の台湾では半世紀ぶりの感染も確認された。

関係者は「狂犬病への関心の低下に加え、小型犬を室内で飼う人が増え、外に出さないからと、予防接種の必要性を感じないのかもしれない」と分析する。

紙面そのまま スマホでチェック

夕刊フジは、アンドロイド・スマートフォンやタブレット、iPhoneやiPadなどで紙面そのままが見られる無料アプリを各端末用のアプリ配信サイト（Google PlayとApp Store）で提供しています＝写真。手元の端末でいつでもどこでも記事が読め、ページめくりや記事の拡大もワンタッチ。過去3カ月分の紙面を閲覧できるバックナンバー機能もありますので、連載小説や記事をいつでも再読できます。

購読料は、アンドロイド版が月ぎめ945円、1部売り（1日分）105円、iPhone、iPad版は月ぎめのみで960円と圧倒的にお得。新聞購読のスタイルを変える「夕刊フジ・アプリ版」をぜひお試しください。